

福井いきいき会新聞

2019年11月発行：
福井いきいき会
福井市中央1-9-29：
0776-28-6464
発行責任者
吉岡副会長



一生勉強、一生感動、一生青春 第11号

杉本知事との意見交換会開かれる (第54回よろず討論会)



これから二十年後を見て、福井が住んで満足できる街にするために行政に出来ることは何かについて、各界から意見を聞きたいという施政の一環として、十月十五日(火)に杉本知事がよろず討論会に来られ、意見を聴取されました。当日は、約五十人が参加し、たくさん意見や要望を述べましたが、その概要は以下の通りです。

濱田さんは、当県は「幸福度日本一」の評価を得ているが、「実感がない」という声に傾聴して欲しいことを、澤村さんは福井駅前、観光名所、食事処などが一目でわかる表示板や木陰のある場所を設け、足羽川等へと続く並木道を作ることや、織維やメガネを使う「日本のフアッションは福井から」という風にして行っていくと意

見を述べた。小坂さん、も、園、足内、公、山、と、羽、山、一、歴、史、の、道、一、朝、倉、遺、跡、の、充、実、と、寺、の、整、備、を、望、ま、した。山田さん、新幹線が開通後の

金沢は混雑のあまり評判が悪いが、福井は朝倉遺跡や永平寺、さらには若狭の格式高い古寺や仏像があるのので、「静かで情緒豊かな町福井」のイメージを作っていくと述べられ、長谷川さんも、舞若自動車道の四車線化、山紫水明・景観を利用した日本海側の一大リゾート開発を推進するとよいと訴えられた。定池さんは、新幹線と電車、バス、タクシ一等の連携を密にすること、これらの料金と格安にして、高齢者が免許証返納しやすくなるような道筋をつけて欲しいことを、大野さんは、当会のような高齢者にとつての憩いの場が県内にたくさんできるような施設を、知事公舎を高齢者に開放してはどうかと提案した。

小林さんは、老老介護や認知介護も珍しくない中で病院のベッド数削減という声を聞けば、社会保険がかりであると訴えられ、上坂さんは障害者の保護者が中心となって設立した「すだちの家」に「宿泊できるグループホーム」を作れるように助力してほしいと要望された。片山さんは、多発している自然災害の復旧活動をしているボランティアに関する相互互助の施策を、最後に福井会長は、かつて県庁内で若手職員と一般県民とが定期的に行っていた「行政改革懇談会」を、是非復活させて欲しいし、無料タクシ配車システムで、高齢者が自由に出かけて、人と交流できるようにしてほしいと要望した。

杉本知事は、これらの意見に対して一件一件、お考えを述べられたが、公共交通網に対しては、「マイカーでお年寄りの移動を手助けする有償ボランティアの活用などを考えていきたい」などと述べられた。

「のは誰でしょう?」「一孫とおじいちゃんがグランドで遊んでいます。何をしているのでしょうか?」といった具合です。答えはお分かりかな。前者は、お父さん、後者は、ソフトボールです。

歴史を楽しむ会の講師もされている井上さんは、なかなか言葉遊びとして、室町時代から高貴な方々の間で行われていたことを紹介されました。「雪は下より溶けて水の上にそう」。答えは「ゆみ」だそうです。庶民には難解なぞなぞですね。

また、絵を見せて、それからわかるものはいった問題も出されましたが、あれだこれだにぎやかになひと時でした。

おしゃべりランチは、当会の人気のサークルです。その理由の一つは、食事のまえの井上さんの楽しいお話にあります。十月は、なぞなぞの話がな問題です。「家のなかで通行止めをしている

おしゃべりランチ
おしゃべりランチは、当会の人気のサークルです。その理由の一つは、食事のまえの井上さんの楽しいお話にあります。十月は、なぞなぞの話がな問題です。「家のなかで通行止めをしている



会員のページ

歴史は妄想

井上 清一

退職してまもなく、たつたと思うのですが、高校の同窓会で、日本で最も歴史ある古道と言われている奈良の「山の辺の道」を歩くイベントがありまして。その時に地元の人から、その時に案内をいただいた方に話を聞きました。その時、この時が、伊豆さんの説明を聞きながら旧跡を歩くことは格段に楽しいことを実感しました。歴史あり、エピソードあり、ユーモアありで、歩く疲れなど吹っ飛ばさずでした。

この「山の辺の道」の散策をきっかけに、福井市歴史ボランティア部に加入していただくことになりました。一年間の研修の後、北の庄城址や柴田神社の案内をやらせていただきました。緑の



ユニフォームを着て、来られたお客様に初めて説明をした時の「ドキドキ感」は今も忘れられませぬ。

歴史の勉強を始めて十年ほどになりますが、前職での研究活動との違いを実感しています。研究活動は五十才を峠に下り坂に向かいます。頭の柔軟性、体力等、若い人たちにはとてもかなわなくなるのです。技術の世界では、古い知識など大量に持っているもほとんど価値はなくなりまます。持っていることが進歩の邪魔にさえなります。退職前の十年は、若い人たちに追いつき追い抜かれていく苦しい期間でもありました。

一方、歴史ボランティアの仕事は、技術の仕事とは著しく異なります。古い知識も新しい知識も同じ価値を持ちます。従って、蓄えられた知識に賞味期間がありません。どんどん貯まってくのです。そして、みんな役に立つのです。年利息10%の貯金をしている心地です。貯めるだけではなく、皆さんにお話を聞いてい

ただ、喜びもあります。随分前になります。角川書店が発行していた「歴史読本」の編集長が福井に来られたことがありました。その時、その編集長は、「歴史は妄想ですよ！」とおっしゃいました。歴史には、資料がたたくさん残っている部分もあるし、全く資料が見つかっていない部分もあります。その欠落部分を「妄想」で補うのが歴史の楽しみなんです。と言われたのです。妄想ですから、正しいかどうかはわかりません。でもこの言葉は、妄想好きな私を非常に元気づけてくれました。「そうか遠慮なく妄想すればいいんだ！」と。歴史を楽しむ会では、「語り部」ならぬ「騙り部」をやらせてもらっています。

歴史を楽しむ会には、有難いことにいつもたくさんの方々が聞きに来てくださいます。家で下調べをしている時に、いきいき会の皆さんの笑顔が浮かぶのです。そうすると元気がもたえ、もつと調べてみようという意欲が湧いてきます。皆さんを学

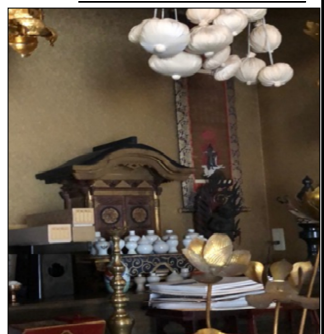
生さんに例えるのは失礼ですが、学校の教師は学生が育てるのです。これからも育てて頂けますようお願いをいたします。

乗久寺の秘仏

松島 成美

私の実家は、幾久町にある乗久寺という宗派時宗のお寺です。宗祖の一遍上人、二祖の真教上人の教えを基に、「南無阿彌陀仏」を掲げるところに、大慈悲の阿彌陀仏に帰命するお念仏を一番大事なこととしています。我執を捨て、家業につとめ励み、むつみあえば、極楽浄土への道が開かれると教えています。

実家のお寺には、**跼倉姫婆尊**（あしくらおんばそん）という秘仏が祭られています。今から五百六十年前の千六百五十六年、わがかりやく言つと、徳川の江戸時代にはいつて五十二年後のことです。当山第一代の住職蘭阿佛法上人様が底喰川（そばみがわ）の辺りを歩いてみると、柳の緑の生い茂る中から、怪光が見



えたので、水中から拾い上げたところ優婆夷の形にして、嬰児（みどりご）を負える御姿でした。それでそれを寺に持ち帰ろうと思つた所で目が覚めたこのことです。

その夢を三夜に亘り見たもので、不思議に思い、九月十八日の朝の勤行を済ませて、底喰川のほとりを歩きますと、夢に見た柳の生い茂る川が見え、その所を探してみると、あやしき木像が現れ、しかも夢にみた佛像と少しもたがわず、喜び勇んで寺に持ち帰り安置し、香花や清めた米をお供えし、毎朝読経怠りなく勤めていました。

ある日、婦人が訪ね来て言うに、「この寺に跼倉姫婆尊がまします」と承りました。

「私は一子を出産しましたが、乳が止まって、赤

子の命に関わるため、困っていましたら、在る人が「乗久寺に安置する跼倉姫婆尊の供米を受けて頂くと、乳房満ちて忽ちに出る」とのことです。蘭阿上人不思議なことを申し出るものだと思いつながら、も供米を授けたところ、いづくともなく立ち去られたというのです。

蘭阿佛法上人は、これは菩薩がこの霊像のご利益を知らせんがために婦人となって来られたものと思ひ、読経怠りなく勤めたところ、幾ばくともなく近隣はもとより、遠隔からも参詣するようになったと言われています。

この跼倉姫婆尊は貴賤尊卑の隔てなくご利益があり、乳の出ない婦人には乳を与え、出過ぎて困る婦人には乳をあつかる仏様です。

その上「難産で苦しむ婦女には、跼倉姫婆尊の綿巾（わたぎれ）を頂き、腰に巻けば平産に」「男子を求めば男子が、女子を求めば女子を出産する」という、女人救済・子孫繁栄など「万物の母神」でもあります。

例会講演の概要

演題

「福井新聞創刊
二百二十周年の歴史」
講師

顧問 山田文雄氏

令和元年十月二十九日
(火)

参加者 七十六名

福井新聞は明治三十二年に創刊し今年で二百二十周年を迎えた。その頃の福井はどうだったか。鉄道は明治三十年に敦賀小



松間が開通、電気は明治三十二年にわずかながら二百余戸に灯った。文明開化の足音が福井にも近づきつつあった。「さあ次は情報だ」の声が大きくなると、福井新聞の創刊となった。福井銀行も同年に創業している。

さて明治三十二年八月二十八日に創刊された第一号紙はどのような紙面だったか。附録を含め十二ページからなり、一面は三田村社長の発刊の辞「氣運の然らしむるところ、福井新聞の創刊を促し、福井新聞の機関新聞となる」と、格調の高い文面。さらに当時の各紙がそうであったように、政論紙として「憲政本党の主張を支援し」とある。祝辞、寄稿には大隈重信、犬養毅、鳩山和夫、尾崎行雄ら中央政界からの名も目立つ。

一方、親しみやすい記事もある。「福井繁盛記」や投書欄、俳句など多彩な広告にも力を入れ、また広告にも力を入れ、当時は珍しい置き時計やフランス輸入の葡萄酒など、ハイカラな商品を競うように紹介している。時代が進むと、国運を賭けた日露戦争の行方に注目が集まる。福井新聞も力を注ぎ、号外を二年間約二百回、日本海海戦などでは一日に数回も発行。人々の期待に応えた。

昭和に入ると激動の時代を迎え、軍部が台頭。中国へ拡大した戦火の中で、慰問袋に入れた子供たちの写真特集など発行された。太平洋戦争が始まる昭和十六年には、言論出版取締法により、事前検閲が入り一部白紙の紙面も出るなど苦悩の編集が続いた。

昭和三十年代からは設備の近代化が進み、社屋も桜通りビル、大和田センターへと建設された。輪転機もいまシャフトレス型オフ輪四十ページの印刷体制を確立。その間には鉛活字をやめて記事入力から紙面づくりまで、すべて電算処理されている。そして「読者から信頼され、地域のことは何でもわかる日本の郷土紙」を企業理念にして、毎日の新聞づくりなど、多様な活動を展開している。福井の総合情報企業として、文化やスポーツなど各方面にわたり、主催共催や後援事業を行い、年間約三千件にのぼる。また営業面では広告を軸に細かな提案を実施。生活情報誌の発行や、教育に新聞を活用するNIEも進めている。

十月の川柳

して誠に感慨深いものがある。
ポケてない
顔でわからずヒントから
仲良しも
仲違いする 行き違い
上坂 征夫
ZOO(脳)梗塞
ZOO再発にZOO喫煙
小坂 武士
ふと思う
明日は我が身か世の変化
齋藤榮三郎
停電の
被災地照らせ秋の月
澤村 玲子
人は皆
生老病死の 道歩む
濱田 芳雄
敬老の日
孫への返し 五倍増し
増永 一夫
ほいほいと
何でも引き受けもうパンク
好きだった
思い続ける 過去の人
吉田美恵子
陰になり
日向になつて生きてます
吉野 廣

令和元年12月の行事予定表

サークル名など	会場	開催日		
健康麻雀	A室	12/1(日)	12/2(月)	12/6(金)
		12/7(土)	12/8(日)	12/9(月)
		12/13(金)	12/14(土)	12/15(日)
		12/16(月)	12/20(金)	12/21(土)
		12/22(日)	12/23(月)	12/27(金)
		12/28(土)		
役員会・事務局合同会議	B室	12/2(月)		
合唱グループ(21)	B室	12/2(月)		
ピンポンの会 (市体育館) 【200円】		12/3(火)	12/20(金)	12/23(月)
懐かしの映画鑑賞会	B室	12/3(火)		
経済指標を考える会	B室	12/4(水)		
スマホ勉強会	B室	12/4(水)		
ダンス教室 アオッサ6階レクルーム		12/5(木)	12/12(木)	午前10時
囲碁将棋	B室	12/5(木)	12/12(木)	12/19(木)
		12/26(木)		
芸能クラブ	ハピリン	12/6(金)		
	B室	12/20(金)		
卓話を聴く会	B室	12/7(土)		
運営委員会	B室	12/10(火)		
気軽に話せる会 (午前10時)	B室	12/11(水)	12/25(水)	
歴史を楽しむ会	B室	12/11(水)		
よろず討論会	B室	12/13(金)		
新聞雑誌の記事を読む会	B室	12/16(月)		
おしゃべりランチ【1,000円】	アオッサ	12/17(火)	12時開始	
手つくりの会 (別会場) 【1100円】		12/18(水)		
易しい科学の話	B室	12/18(水)		
カラオケの会(於:喫茶MAD)忘年会		12/19(木)	11:30開始【3000円】	
ボーリング(福井レジャーランドボウル)		12/20(金)	10:00開始【1,000円】	
私の健康法 (午前10時)	B室	12/21(土)	開始時間に注意	
川柳同好会	B室	12/21(土)		
カラオケ研究会 (中止)	中止			
気軽にカラオケ	B室	12/22(日)		
音楽鑑賞会	B室	12/23(月)		
例会	アオッサ	12/24(火)		
インターネットで世界旅行	B室	12/27(金)		
読書会、習字教室 (休止中)				
12/29(日)から31(火)まで 年末休暇				

令和元年12月の予定表

例会講演
針灸マツサイジから
見えた健康法
講師 吉中義弘氏

映画鑑賞会
素晴らしき哉、人生
人生に絶望し、自殺しようと思いつめたジョージが、二流の老天使に出会い、生きるよろこびを取り戻す姿を、ユーモアとパースにファンタジー



を交えて描いた名作。

歴史を楽しむ会
「新説忠臣蔵」
講師 井上清一氏

十二月は忠臣蔵の季節です。昔から映画やドラマに忠臣蔵を題材にするマにヒットするといふシンクスがあります。私もこのシンクスの助けを借りようと忠臣蔵を選びました。

さて、赤穂浪士の討ち入りには、秘かなる幕府の後押しがあったのでは、ないかというものです。討ち例を紹介いたします。

入り前に、幕府は吉良屋敷を辺りな地へ移動させています。もともと吉良屋敷は、北と南の奉行所があった幕府行政の中心地でありました。その中心地から両国橋を渡った辺りな地へ移動させられたのです。現代風に言えば、東京の新宿で騒ぎを起さされては幕府も困るし、浪士達も郊外にある屋敷を襲う方が都合が良いだろうというわけです。

当日は幕府の後押しを色々紹介します。

易しい科学の話
講師 吉岡芳夫氏

今年の注目科学「ニュー」を振り返ってみます。

インターネット世界旅行
案内 吉岡芳夫氏

北欧の国フィンランドへ行ってみましょう。絶え間なく日差しが注ぐ夏が終わわり、冬がやってくる、まるで魔法のようにオーロラが現れ、空を照らします。

世界で真夜中の太陽を見ることが出来る地域に



住む人の三分の二は、フィンランドに住んでいます。フィンランドの最北部にあるラップランドでは、太陽が沈まない日が七十日以上も続きます。